

令和元年度 第1回高梁市医療計画検討委員会議事概要

日 時：令和元年5月27日（月）19：00～20：30

場 所：高梁市役所3階大会議室1

出席者：委員14名、アドバイザー1名、市長、事務局7名

1 開 会

近藤市長あいさつ

- ・お世話になり昨年高梁市医療計画を策定できた。感謝申し上げます。
- ・県の計画はあるが、本市の医療をとりまく環境に対しどうあるべきかを計画に盛り込みたいという思いがあった。
- ・計画策定において多くの課題がわかってきた。医療人材不足により経営不安を感じられている事、看護師が高齢化により不足している事、働き方改革の問題など
- ・一度に解決できる特効薬はないので、この検討委員会でしっかり考えていただきたい。高梁市の置かれている現状は厳しいものがあるが、だからこそ解決できること、新しい知恵が必要だと思う。
- ・課題を乗り越えていく環境が必要だと感じている。
- ・これからも皆様方のお知恵をいただきながら計画をよりスムーズに運べたらと思う。貴重な時間をいただいているので、積極的なご意見をいただけたらと思う。本日は、よろしく頼む。

～自己紹介～

2 役員選出

吉備国際大学 河村 顕治 副学長が会長に選出

3 協 議

(1) 平成30年度の成果について（報告）

－資料1、2、3により事務局から説明－

紙谷委員：看護師確保に向けて昨年度色々な動きを行ったが、今年の4月の就職状況はどうなっているのか。

仲田委員：医師会の調べでは、平成30年4月の採用は5名。平成31年4月の採用は18名と非常に増えている。その中で地元の学校から採用された学生数は、平成30年で3名、平成31年で5名となっている。

河村委員：吉備国際大学看護学科の入学者は定員60名に対し40名と非常に厳しい状況。

藤井委員：4病院の看護部長で県内14の看護学校を訪問した。高梁市出身の学生が数名しかいない。市内の看護師希望の学生はどこの学校へ行っているのか。

仲田委員：高梁高校で方谷学の授業をさせていただき、その学生らで奨学金のポスターを作成されている。その学生が現在、吉備国際大学へ入学され、市の奨学金を活用していると聞いて

いる。高校へのアプローチは重要であると思う。

藤村委員：県の基金で看護師の支度金の事業がある。この事業は活用されているのか。予算も余っていると伺っている。

藤澤委員：看護師の奨学金制度だが、現在3名の予算措置だが、この6月議会で2名の追加要望を行う。金額面や制度について皆さんからご意見をいただければと思う。

河村委員：奨学金の話は専門部会でも何度か議論してきた。支度金の話は初めて聞いたが、誰が情報を持っていないか。

事務局：県の基金で市内の病院で2件の活用事例がある。また、市の定住施策として引越し費用の助成事業もあり、そちらも看護師が2名活用いただいている。

仲田委員：看護の魅力ガイダンスで市の引越し費用等の援助の話をしたところ驚かれていた。もっとPRすべきだと感じた。

(2) 平成30年度の成果のPRについて（協議）

－資料4-1、4-2により事務局から説明－

浜田アド：市民公開講座でも受療行動を見直したいとの話があったが、そういったものを含め市民の反応はあるのか。

事務局：市民公開講座のほか、計画策定後に広報紙の特集や座談会の様子を吉備ケーブルテレビで特番を組んだ。市の広報担当や吉備ケーブルテレビから高評価を得ている。市民の関心が高いことは間違いない。

仲田委員：子育てサポートに関して、新生児から乳幼児期に少し問題があるかもしれないと思われる子に対し、小児科が持っている情報と保健師が持っている情報、産科の先生が持っている情報をお互い何も知らずに動いているが、ケアキャビネットなどを活用して、情報を密にして手厚い対応をしていく必要があると考えている。今年の4月に未熟児のフォローをお願いしたいと県南の病院から依頼があった。その話を保護者にしたら登録をしてくれた。やまぼうしは高齢者だけでなく、子ども達にも使えるのではないかと思うので、広く活用していきたい。

菅原委員：高梁版ネウボラを何年か前から掲げているが、わかりにくい。母親に伝わっているのか。元気な子どもは保健師がずっと関わっているが、一旦病気という診断が出てしまうと医療機関にべったりとなり、全体を見る事ができていないと思う。この計画でも具体的に記載してみてもどうか。

事務局：母子保健活動については、保健師が母親世代に丁寧に説明している。一方で、母親世代以外の世代に対して活動のPRが出来ていないという現状がある。分かり易く伝えていくことが課題であると思う。

仲田委員：ネウボラに関連してスクラム作戦の事業があると認識しているが、その認識で良いか。

事務局：その認識で良い。スクラム作戦を含めて高梁版ネウボラが評価されていると考えている。医療との関係では、元気な子が怪我をしたとか病気をしたといったことまで保健師が関わっている訳ではないが、支援が必要なお子さんへはきちんと関与していると認識していただき

たい。

河村委員：ネウボラという言葉にリンクを貼っておくべきでは。

菅原委員：厚生労働省では5年ほど前から推進しているが、確かに浸透していないと思う。

事務局：表記について工夫の余地がないか検討させていただきたい。

紙谷委員：合格通知の際に奨学金のパンフレットを同封と書いてあるが、大学の募集要項の段階で入れることはできないか。

河村委員：専門部会で話が出たので、入試広報のセクションで対応していると思う。他にもオープンキャンパスなどでも周知活動が始まっている。専門学校校長も市内の高校に奨学金パンフレットを配布するなどかなり周知には力を入れている。

仲田委員：先ほど、奨学金の話があったが、順正専門学校だと年間80万、吉備国だと年間100万の授業料がかかっている。市の奨学金の額が月5万円になれば授業料の半分以上を賄えるし学生は助かると思う。残りは各病院の奨学金で対応してはどうか。

藤澤委員：関係機関の奨学金がある中で市がどこまで踏み込んでいけるのかという話があるだろうと思う。意見交換ができる場を事務局で設定できたらと考えている。また、大学の募集時に配るということが最も大事だと思う。入学生が減っているということもあるので、地元の市も頑張っているということも伝われば相乗効果で受験者が増えるのではないか。

仲田委員：患者対応の改善として、高梁かごねつとで検討してはどうかと記載がある。本内容について、本委員会で後押ししていただければと思う。

事務局：患者対応や働き方改革も含めて、せつかく4病院の看護部長が集まる会議があるので、関係するところは提案し、議論していただきたい。

浜田アド：高度急性期や急性期でかかっている患者が多くいる病院リストがあるが、それ自体は問題ではないと思う。どう戻すかが大事であると思うが、方向性としてどのように考えられているか。

事務局：どうやって地域に戻していくかを議論するための資料である。

浜田アド：それは正しい認識だと思う。

藤村委員：高度急性期は県南でというのは正しい認識だと思うが、何日で地域に戻すかが大事だと思う。住民と議論して早い段階で地元へ帰してもらうことが大事。回復期リハの市内の位置づけにも繋がると思う。入退院支援ルールにも繋がってくるのではないか。

仲田委員：医師会としてもその方向でと考えている。在宅医療・介護連携の関係で、4月からケアキャビネットで県南の病院の連携室と情報交換したり、患者の顔を見ながらカンファレンスが行えるようになったと聞いているので、連携システム検討部会でも今年の議題としているところである。

戸田委員：あまり普及は出来ていないが、救急患者に関してテレビ会議システムは導入されている。

仲田委員：今年も看護学校を回ると思うが、学校と卒業生は繋がっていると思う。卒業生が次の就職先の相談に先生の所へ来た時に引越し費用の助成などを紹介し、高梁市内での就職に結びつけられないか。

藤井委員：4月の訪問の際にその依頼も行っている。引越し費用の話までは出来ていない。

事務局：ある一定期間県南の病院で働かれ、もう少しゆっくり働きたいと学生が学校に相談に来るケースが比較的多いと学校で言われていた。奨学金だけでなく、引越し費用を含め関連の事業をPRできるよう各学校へ周知したい。

近藤市長：引越し費用の助成事業は、昨年から始めた事業で昨年は看護師さんから2件の申請があった。今年度は、介護職1名、看護師2名から申請の見込み。PRをすればもっと活用実績も増えると思う。部を跨いだ事業となっているので、部間で調整を行う。

事務局：トータル的にPRする方が効果が高いと思うので、調整していく。

近藤市長：大学側もHPに挙げるなど協力をお願いしたい。

戸田委員：昨年、一年で看護師確保について議論し、市にもしっかり頑張ってもらっていただき、その効果かどうかはわからないが、今年の春は10人以上の応募があった。今の状況に甘んじてはいけませんが、今年の春は今までとは違うなという感じだった。新卒から63歳までの幅広い年齢層からの応募だった。地元ではない方の応募が多かった。

4 その他

浜田アドバイザー

- ・医療政策に特効薬はない。わりと進まないことが多いが、高梁市は部会とか医療・介護連携推進協議会とかで活発な議論をされ、地道に進まれているといった感じを持った。
- ・市内病院の連携体制がしっかりしている。
- ・岡大の地域枠の学生もこの地域に3名配置され、学生と各病院のマッチングが出来ている。
- ・医療問題は難しいので、どう住民に伝えるかが問題であるが、その辺りもしっかり考えられている。
- ・大学生や一般の若い人たちにもこういった議論に加わってもらえたらと思う。
- ・市役所がわかりやすい資料を作られている。こういった資料は、住民の理解が深まると思う。

5 閉会（仲田副会長）

- ・活発な意見交換ありがとうございました。
- ・平成30年度の成果、PR、またそれに基づいた今年度の議論ということで、色々見えてくるが多かった。
- ・私の患者で県南の急性期病院から地元へ帰りたいという患者さんが増えている。住民意識も変わりつつあり、県南と連携し、よりよい医療を提供できる体制を整えばと思う。
- ・若い先生にこの地域に就任いただき、4つの病院を回ってもらえたらと思うが、法律上の問題があり、難しい面も多々あることは承知している。それが実現すれば我々のやりがいにも繋がると思う。
- ・本日はお疲れ様でした。